

2021年度 長期研修報告書

所属 法学部 職名 教授

氏名 野口雅弘

< 研 修 概 要 >

研修者は、2021年8月30日から2023年8月29日までの2年間、「マックス・ウェーバーの政治理論および日本におけるウェーバー受容についての研究」との研究課題で、ドイツで研修を行った。

最初の半年はボンにある高等研究所 The Käte Hamburger Center for Advanced Study in the Humanities “Law as Culture のフェローとして、その後の1年半はミュンヘンにあるバイエルン科学アカデミーの客員研究員として調査・研究を行った。バイエルン科学アカデミーはマックス・ウェーバー全集 (Max Weber-Gesamtausgabe) の編纂拠点であり、数多くの関連資料がそこに保管されている。近くにはバイエルン州立図書館もあり、とても恵まれた環境で研究に集中することができた。

しかし、この2年間でドイツで過ごすのはそれなりにハードでもあった。渡独して半年は新型コロナウイルスの蔓延のために部屋からほとんど出ることができず、研究会もほとんどすべて Zoom での開催であった。その後、ロシアによるウクライナ侵攻により、距離的にも心理的にも戦地に近いミュンヘンにあって、とても緊張を強いられる生活が続いた。さらに、物価の高騰と円安のため、とりわけ家賃の高いミュンヘンで生活することはとても大変であった。

それでもなんとか研修を終えられたのは、ボン大学の Werner Gephart 教授とバイエルン科学アカデミーの研究員 Edith Hanke さんおかげである。記して感謝申し上げたい。また、さまざまな形で研究生活をサポートしてくださったことに対して、成蹊大学、法学部共同研究室、そして法学部の同僚の皆さまに、心から御礼申し上げたい。

研修期間の成果および近刊を予定している成果は、以下である。

日本におけるウェーバー受容については①⑦⑧⑨などで発表・報告をした。

また、執筆の途中なので以下のリストには加えていないが、研修中の調査・研究を基礎にして、日本におけるウェーバーの「価値自由」の受容をテーマにした著作『中立性の政治学』（仮題）の執筆に取り組んでいる。遠くない将来に完成したいと思っている。

ウェーバーの政治理論については、研修期間中に③の翻訳作業を行なった。ミュンヘンでの現地調査ができたことで、訳註などを充実させることができた。この翻訳については、現在ゲラの校正をしている段階で、2023年12月と2024年1月に2巻本で刊行予定である。この翻訳を踏まえた研究の成果も、今後発表していくつもりである。

【書籍】

- ① Max Weber und das Narrativ einer fehlenden geistigen Grundlage des „modernen“ Japans: Eine Ideengeschichte des Ethos-Begriffs, in: Ulrich Bachmann/Thomas Schwinn (ed.), *Max Weber revisited: Zur Aktualität eines Klassikers*, Weinheim: Beltz Juventa, 2022, S. 277-294 (「マックス・ウェーバーと「近代」日本における精神的基礎の欠如というナラティブ」『マックス・ウェーバー再訪——古典のアクチュアリティ』)。
- ② Translating Gemeinschaft und Gesellschaft into Japanese, in: Werner Gephart/Daniel Witte (ed.), *Communities and the(ir) Law*, Frankfurt am Main: Klostermann, 2023, S. 51-63 (「ゲマインシャフとゲゼルシャフトの日本語訳」『共同体とその法』)。

【翻訳】

- ③ マックス・ウェーバー『支配について』I・II、岩波文庫、2023年12月、2024年1月刊行予定 (Max Weber, *Max Weber-Studienausgabe*, Band I/22-4: *Wirtschaft und Gesellschaft. Herrschaft*, hrsg. von Edith Hanke, in Zusammenarbeit mit Thomas Kroll, Tübingen: J.C.B. Mohr (Paul Siebeck), 2009の翻訳)。

【論文】

- ④ 「「価値自由」と政治——ドイツ社会学会（一九〇九～一九三四年）におけるゴルトシャイト・ウェーバー・マンハイム——」『ゲシヒテ』2023年近刊予定。

【エッセー】

- ⑤ 「政治用語再考（3）政党間連立協議」『月刊 生活経済政策』298号、2021年11月。
- ⑥ 「政治用語再考（4）ヒトラーと同じだ」『月刊 生活経済政策』302号、2022年3月。
- ⑦ 「政治用語再考（5）足並み」『月刊 生活経済政策』306号、2022年7月。
- ⑧ （経済教室）「コミュニケーション不全の時代（上）『決められない』に向き合う」『日本経済新聞』2022年8月1日朝刊。
- ⑨ 「政治用語再考（6）もっと進歩を」『月刊 生活経済政策』310号、2022年11月。

【書評】

- ⑩ （書評）「折原浩『マックス・ヴェーバー研究総括』」『読書人』2022年12月2日号。
- ⑪ （書評）「森政稔『アナーキズム』」『公明新聞』2023年6月5日。
- ⑫ （書評）「山崎望編『民主主義に未来はあるのか？』」『年報政治学 2023-I』2023年6月、367-370頁。

【講演・学会報告など】

- ⑬ (報告) 「ドイツ社会学会(1909-1934年)における学問と政治—「価値自由」の行方」、ドイツ現代史学会(オンライン)、2021年9月18日。
- ⑭ (討論) 「書評ラウンドテーブル 政治学から見る等身大のMax Weber」、日本政治学会(オンライン)、2021年9月26日。
- ⑮ (講演) Translating of Human Rights in East Asia, The Käte Hamburger Center for Advanced Study in the Humanities “Law as Culture,” Bonn(オンライン)、2021年10月26日。
- ⑯ (リプライ) 「今野元『マックス・ヴェーバー』・野口雅弘『マックス・ウェーバー』をめぐって」、東海地区政治思想研究会(オンライン)、2021年12月4日。
- ⑰ (講演) Max Webers „Politik als Beruf“ (1919) im Spiegel deutscher und japanischer Politiker:innen (「日独の政治家の鏡に映ったマックス・ウェーバー「仕事としての政治」(1919年)」)、バイエルン独日協会(Deutsch-Japanische Gesellschaft in Bayern e.V.)・ミュンヘン大学(LMU)日本センター共催、ミュンヘンIBZ(国際交流センター)、2023年1月19日。
- ⑱ (講演) Max Weber-Rezeption in Japan und der Kompromiss (「日本におけるマックス・ウェーバー受容と妥協」)、研究プロジェクト「妥協の文化」(Interdisziplinärer Forschungsverbund Kulturen des Kompromisses)研究会、デュースブルク・エッセン大学、2023年2月9日。
- ⑲ (報告) Max Webers „Politik als Beruf“ im linken Flügel der japanischen konservativen Partei (LDP) (「日本の保守政党(LDP)リベラル派におけるマックス・ウェーバー『仕事としての政治』受容」)、オンライン研究会WSN(Weber Scholars Network)、テーマ:Die Wirkung von Max Webers “Politik als Beruf” in Deutschland, Japan und Brasilien (ドイツ、日本、ブラジルにおけるマックス・ウェーバー『仕事としての政治』の影響)、2023年6月9日。

【受賞】

- ⑳ 第39回櫻田会賞奨励賞、2022年2月。

【その他】

- ㉑ (特集趣旨) 「社会批判はなおも可能か?」『社会思想史研究』45号、2021年9月。
- ㉒ (インタビュー) 「「政治主導」の行き着く先は? 公務労働の価値、見直す時期に」『都政新報』2022年8月9日。
- ㉓ (受賞コメント) 「第39回(令和3年度)政治研究櫻田会奨励賞受賞者コメント」『櫻田会通信』令和4年夏号、2022年9月。

- ②④ (コメント) 「明日への Lesson」 (マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』) 『朝日新聞』 2023 年 4 月 6 日朝刊。

以上